

# 職員が聞いた つぶやき

空き家を貸したくても、貸せる状態にするまでが大変。

わたしたちが地域のいろいろな方のお話を聞かせていただく中で、聞こえてきた「つぶやき」をご紹介します。「つぶやき」は、どうかしたい、こうなったらいいなどの想いの現れ。地域をよくしていくための芽のようなものと思います。簡単に変えていけるものではないけれど、少しでも皆さんの幸せにつながる方法はないか、わたしたちも一緒に考えさせていただきたいと思っています。

旭小がなくなったら、子どもたちと触れ合う機会が減ってしまうのかな。

移住してくる人がいても、人柄がわからないと不安…。



9月1日より、地域おこし協力隊の高橋巴さん（塩竈市出身）が、旭地区公民館を拠点に、旭の地域力向上のための活動をしてきています。今後はこのかわら版作成をはじめ、地域づくりに係わる仕事をわたしたちと一緒に進めていくことになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

高橋巴さんよりごあいさつ



トレードマークはメガネです！写真は偽りあります。笑

旭地区の皆さん、こんにちは！地域おこし協力隊として活動させていただくことになりました、高橋巴（ともえ）です。旭地区公民館はとても居心地がよく、毎日楽しく過ごさせていただいております。10年後、20年後も、旭の魅力が変わらないように。微力ながら携わることができたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします！



## あなたの お力貸して ください！

このかわら版は、皆さんからお聞きした情報をもとに作っています。旭にこんな素晴らしいものがある、がんばっている人がいる、きれいな景色があるなど、情報がございましたら、ぜひお寄せください。また、かわら版の作成に協力して下さる方も大歓迎です。そのほか、地域をよくしていくためのアイデアやご提案をお持ちの方もどうぞご連絡ください。

連絡先：協働のまちづくり推進課（担当 大河原）  
TEL0229-63-3215 FAX0229-63-2037

## 編集後記

旭かわら版も第4号を発行することができました。早く取材に応じてくださった皆さん、本当にありがとうございました。今回は宮城大のインターンや地域おこし協力隊、南永志田地区にご協力いただいた生ごみ分別実証など、旭地区に吹き込んだ新しい風をご紹介できたのではないかと思います。ただし、一番大切なことは、主役が地区の皆さんだということ。何を残し、何を变えるのか。どんな地域を目指していくのか。地区の皆さんの心に添う形を、わたしたちはゆっくり一緒に考えていきたいと思っています。そのためにも、これから皆さんと地域について語る機会を、少しずつ増やすことを考えています。今後もよろしくお願いいたします。

# 旭かわら版 第4号

ヤクバ職員が見て、聞いて、教わった旭。

発行：加美町協働のまちづくり推進課  
発行日：平成29年11月1日  
連絡先：〒981-4292  
加美町字西田三番5番地  
TEL：0229-63-3215  
FAX：0229-63-2037  
E-mail：kyodo-matidukuri@town.kami.miyagi.jp



ワークショップを体験する高林さん

8月28日～9月1日の5日間、宮城大学事業構想学部2年生の高林昂聖さんがインターンシップ（職業体験）として旭地区を訪れ、空き家や移住定住などの課題に取り組みました。その一環で、「憩いの部屋」に参加させていただいたことをまとめてくださったので、ご紹介します。

\*\*\*\*\*

8月30日、旭地区公民館で行われた「憩いの部屋」のホーム・パル講習に参加しました。憩いの部屋のメンバー15名と東北電力の方々、わたしたちの参加を快く受け入れて下さいました。まず、東北電力の方から電気の使い方についてのお話を聞きました。それから手芸教室ということでソーブアレンジに挑戦。皆さん手先が器用で、とても綺麗なお花のソーブアレンジが完成しましたが、わたしはというと、手伝っていただきながらやっと完成という具合でした。

ころ、コンビニのようなお店や気軽に集まれるカフェといった意見が次々寄せられ、外から来た方ともあたたかい交流の場をもちたいという皆さんの想いがよくわかりました。

皆さんの貴重な意見を聞けるととても良い機会になりました。またソーブアレンジの際にはアドバイスを下さったりと、とても親切だったのが印象的です。

どうもありがとうございました。 文：高林昂聖



にぎやかに話が盛り上がりました

講習会終了後、30分ほど「もし、旭に外から人が引っ越して来たら？」というテーマで、簡単なワークショップに協力していただきました。最初は難しそうなお顔をしていた方も、いざ他の方の意見を聞いてみると「そうよねえ」と共感が生まれていたようです。特に多かった意見は「引っ越してくる方の人柄が気になる」というもの。また、旭地区にほしい場所について伺ったと



## 北永志田 オイノマツリ

6月11日、北永志田地区の「狼祭り（オイノマツリ）」に参加させていただきました。なんと、狼祭りが続いているのは、宮城県内でここだけとのこと。それだけ貴重な伝統行事なのですね。

狼祭りは、放牧していた馬を荒らす狼をボウ（追う）ために明治29年頃から始まったとみられ、現在でも契約講の行事として6月第2日曜日に行われています。

当日はまず、この習わしを受け継ぐ5名の方々と集会所から裏山へ移動しました。供養塔にお神酒等をお供えし、横一列に並んで狼を追い立てる声を「ホーホーホー」と3回叫びました。

その後、地区の人たちが集まって集会所で会食。若い人たちもご年配の方も混じり合ったこのにぎやかな集まりは、地域の方々の親睦の場になっているんだと感じました。

北永志田地区の皆さん、

珍しい経験をどうもありがとうございました！！



ホー

ホー

ホー

ちなみに！！

今回の狼祭りの様子は東北歴史博物館で開催中の特別展「熊と狼」で展示されています。この特別展は、11月19日まで。是非この機会に、ご家族やご友人を誘って観覧してみたいかがでしょうか。

東北歴史博物館

多賀城市高崎1-22-1 TEL 022-368-0106  
営業時間 9:30-17:00 休館日 毎週月曜日  
一般800円 シルバー700円 小中高校生300円

## 陶芸 教室

旭小学校では、地区の伝統工芸品「切込焼」への理解を深めるため、毎年全校児童で陶芸教室を行っています。

6月20日、切込地区の陶芸家 三浦征太郎さんを講師に、子どもたちは焼き物の成形を行いました。1・2年生は三浦さんに作り方を教わりながら。3・4年生は茶道教室に使う抹茶碗を。三浦さんも太鼓判を押す腕前の5・6年生は、自由に制作。中には「コブラ城」「星型の小物入れ」など、独創的なものもありました。

子どもたちの作品は、町文化祭などで展示される予定です。完成品を見るのがとても楽しみです。



## 旭小学校の 地域活動

7月18日、旭小学校校庭で、3・4年生と旭婦人会合同の草取り作業が行われました。婦人会の方々はさすがの手慣れた手つき。子どもたちとも「家はどこ?」「兄弟は?」などと会話が弾んでいました。

作業の後は、子どもたちがイチゴジャムでおもてなし。イチゴを育てたのも、ジャムを作ったのも子どもたち！！

甘酸っぱく、とっても美味しいイチゴジャムでした。

婦人会の方々は、子どもたちと話せる貴重な機会なので楽しみにしているとのこと。地域ぐるみで子どもたちを見守るあたたかい交流でした。



## クリーン 活動

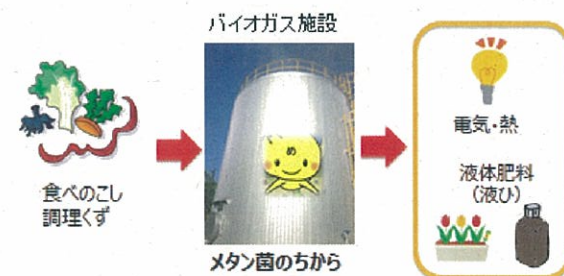
## 旭成人講座 移動研修

6月27日、旭地区公民館主催の南三陸町への移動研修に同行させていただきました。今回のメインは、生ごみなどを発酵させてバイオガスと液肥を作る施設「南三陸BIO」の見学。皆さん初めて見る施設に興味津々の様子で、写真を撮ったり、質問したりしていました。

バイオガス施設で生ごみを発酵させるには、今までの「燃えるごみ」を、発酵に使える「生ごみ」とそれ以外に分別する必要があります。施設見学後は、南三陸町で最初に生ごみの分別に取り組んだ旭ヶ丘地区の皆さんと、意見交換会を行いました。参加者からは、「家族の協力が必要」「やり方を覚えれば自分たちにもできるのでは」といった前向きな声が聞かれました。

加美町では、町内三つのモデル地区で1か月間の「生ごみの分別実証」に取り組み、南永志田行政区でも、8月28日～9月28日に実施されました。実証実験に参加した方からは、「生ごみが肥料に変わり、土に還るのは良いことだ。」「素晴らしい試み」などといった声が聞かれました。今後も続けていきたいと思う人もいれば、難しいと感じた人もいたはずですが、エネルギーの観点から地域を考えるきっかけになればと思います。

移動研修に参加された皆さん、ありがとうございました。



バイオガス施設

食べのこし  
調理くず



メタン菌のちから

電気・熱  
液体肥料(液ひ)

## 旭地区 夏まつり



8月13日、「旭地区夏まつり」が開催されました。この催しは、宮崎西部地区コミュニティ推進協議会が、地域住民の方々と協力して行っています。当日はあいにくの雨模様。公民館大ホールが会場となりましたが、約200名もの参加でにぎわいました。

旭小学校の児童による「キッズソーラン」や宮崎太鼓の方々による凌雲炎舞太鼓が披露され、迫力ある舞台に観客からは多くの拍手が贈られました。

また、かき氷や焼き鳥の販売、水ヨーヨーなどのコーナーもあり、地域住民の皆さんがスタッフとして大活躍。お客さんの中に懐かしい顔があれば久しぶりの再会を喜ぶなど、たくさんの笑顔が溢れていました。会場設営から最後の確認まで、疲れた姿も見せずに動き回るスタッフさんたちの努力があったからこそ、素晴らしいお祭りを作り上げることができたのではないのでしょうか。

次なる旭地区のイベントは、10回目となる「旭地区雪まつり」。子どもから大人まで楽しめる冬のイベントですので、今からとても楽しみです。

旭地区の皆さん、  
楽しい時間をありがとうございました(\*^\*)